実施報告

BOU防SAI!災

いざ！BOUSAI 2007

災害時には、普通の事ができなくなる。。だから、今、見直そう。

すべてがいつもと違う避難生活、そんなときこそ、ココロとからだのケアが大切です。健康を維持するために何が必要でしょうか！？
住民、行政、企業、みんなでつくる防災イベントを行います。災害時の備えを一緒に考えてみませんか？

Program

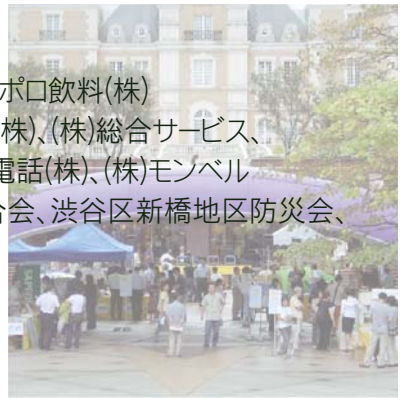
1st	11:00 ＼ 12:20	BOUSAI トーク&ライブ	theme 災害時の水と食料
2nd	13:20 ＼ 14:30	BOUSAI トーク&ライブ	theme 災害時の情報、住
3rd	15:00 ＼ 16:00	BOUSAI トーク&ライブ	theme 災害時のトイレ

About いざ!BOUSAI2007

ひとり一人の備えを喚起する都市型防災イベント

実施概要

時　　期　2007年9月15日（土）　11:00～16:00
会　　場　恵比寿ガーデンプレイスセンター広場
主　　催　日本トイレ研究所
後　　援　内閣府、厚生労働省、国土交通省、環境省、消防庁、東京都
特別協賛　あいおい損害保険(株)、恵比寿ガーデンプレイス(株)、カルピス(株)、サッポロ飲料(株)
協　　賛　(株)ウィルコム、(株)NTTドコモ、KDDI(株)、ジェイアール東日本ビルテック(株)、(株)総合サービス、ソフトバンクモバイル(株)、ニッケン産業(株)、ニッコー(株)、東日本電信電話(株)、(株)モンベル
協　　力　(株)エートゥーナンバーレコード、渋谷消防署、渋谷区新橋地区町会連合会、渋谷区新橋地区防災会、(中)日本ヒーブ協議会
内　　容　防災体験&展示（飲料、食料、住、トイレ、情報）　防災トーク&ライブ
来場者数　約2000人（アンケート回収数842）



いざ!BOUSAI終演にあたって

災害時、命の無事を確認したあとは、自らの健康を維持することが重要です。普段と全く異なる環境下での避難生活がはじまると、あたり前の事が、あたり前のようにできなくなります。

このあたり前のこととは、「くう（食）、ねる（住）、だす（便）」です。極度の緊張状態とストレスの中で、「くう、ねる、だす」をできるだけスムーズに行うには、何が大切で、どのようなものを備えるべきか、住民、行政、企業など、みんなで考えることが必要です。それぞれの団体が役割分担し、本業を活かしながらひとり一人の備えを喚起する場づくりを試みたのが『いざ!BOUSAI2007』です。

防災イベントは、楽しくない、なかなか気が進まない、重要だとは思うけど面倒くさいなど、ネガティブな意見も多く、参加者は減少傾向にあると聞いていましたので、「楽しい!、また来たい!」と言ってもらえるよう工夫しました。

従来の防災イベントや訓練は、学校や公園等で行うことが多いと思いますが、今回は恵比寿ガーデンプレイスで実施しました。子どもからお年寄り、カップル、外国人等、様々な人が訪れる人気スポットです。このような場所で実施することで、防災イベントのイメージを変え、より多くの人を巻き込むことができると考えました。

つぎは、体験展示です。企業や行政の方々の協力を得て、「くう、ねる、だす」にかかわる技術や装置、商品など、実際に体験できるかたちで展示いたしました。やはり、見るのと、やってみるのでは、差は大きいと思います。

そして、通りがかりの人、防災にとくに関心がない人たちなどを引き込む仕掛けとして、ライブとの融合を試みました。ライブでは、全部で7組のアーティストが歌とともに防災メッセージを来場者に投げてくれました。恵比寿ガーデンプレイスに遊びに来た人や、アーティストの歌を聴きに来た人など、さまざまな人たちに、備えることの大切さや、身につけるべき防災スキルを知るきっかけを提供できたと思います。

当日は、天気も味方してくれ、実にたくさんの方々に参加してもらいました。2000人を超える人たちが来てくれたと思います。なによりもうれしかったのは、9割以上の人が「また、参加したい!」と回答してくれたことです。

都市生活はコミュニケーションが希薄だと言われています。恵比寿ガーデンプレイスで、本イベントを実施できたことは、都市型防災コミュニティのあり方を考える貴重な一歩につながったと思います。いざ!BOUSAIを支えてくださった皆様方、本当にありがとうございました。

日本トイレ研究所

BOUSAI 体験 and 展示

災害が発生したら、まず命を守る、大切な人の安否を確認する、そしてトイレ、飲料、食料、生活の場を確保することが必要です。
ここでは、行政、企業の協力を得て、いざ!という時の知識や技術、アイテムについて、来場者と一緒に体験しながら学ぶ場をつくりました。
以下に、体験&展示の内容と来場者からの主なコメントを紹介します。

■オープニング■

以下の方々から、メッセージを頂きました。

（日本トイレ研究所　上）

（渋谷消防署恵比寿出張所所長　三瓶氏）

（東京都町会連合会　高根澤氏）

（国土交通省北陸技術事務所防災技術課長　齋藤氏）

■飲料コーナー■

▼▲災害時にも飲料を供給できる、災害用ベンダー▲▼

サッポロ飲料(株)
（防災対応自販機）
http://www.sapporo-inryo.jp

“災害用自動販売機”を始めて２年になります。災害用ベンダーのマークをぜひ覚えて帰ってください。
（サッポロ飲料(株)営業本部　徳永氏）

約3リットル

行政などの本格的な復旧支援は、発生から3日間かかると言われています。
飲用の水は１人分１日あたり約３リットルと一般的に言われています。
最低3日分は備蓄ましょう。

BOU防 SAI!災

来場者の感想
⇒1日1リットル、3日で3リットルが必要と知った
⇒高層マンションでの災害時の水の確保に関心

カルピス(株)
（防災対応自販機）
http://www.calpis.co.jp

“災害用自動販売機”を出展しました。関東大震災のとき、市民へ資材を提供したという創業者の精神を受け継いでいきたいと思います。
（カルピス(株)ＣＳＲグループ　大石氏）

BOU防 SAI!災

■情報コーナー■

▼▲災害時の安否確認ツール「171」「WEB171」等▲▼

東日本電信電話(株)
(安否確認ツール)
http://www.ntt-east.co.jp

(株)ウィルコム
(株)NTTドコモ
KDDI(株)
ソフトバンクモバイル(株)

災害時、東京では１週間程度、電話が通じなくなると予想されます。災害時は“安否確認”から始まります。普段から考えておくことが大切です。
（東日本電信電話(株)ネットワーク事業推進本部　東方氏）

来場者の感想
⇒１７１ダイヤルを実際体験できた
⇒災害時に情報が一番必要だと思った

171

全国から被災地に安否確認等の電話が殺到し、つながりにくくなった際にも、被災地外から被災地内の家族や知人等の安否が確認できる通信手段として、災害用伝言ダイヤル。
http://www.ntt-west.co.jp/dengon/

BOU防 SAI!災

■住コーナー■

▼▲災害時の住をサポート、地震保険、風力発電、循環型トイレ▲▼

ニッコー(株)
(小型風力発電)
http://www.nikko-company.co.jp

携帯電話の充電を行うことができ、災害時の安否確認・情報収集をサポートする“小型風力発電機”です。
（ニッコー(株)東京営業所　川瀬氏）

来場者の感想
⇒風力のコストパフォーマンスとその効果に関心
⇒家を建て替えたので地震保険はに必要不可欠
⇒汚れた水がこれほどきれいになるとは驚いた

約3分間

命を守り、二次被害を防ぐために重要な時間です。大きな地震が発生したら、まずは身を守る。そして、火の始末、逃げ道の確保、家族の安全確認。
靴を履き、非常持ち出し袋を用意し、近隣の安全を確認して避難しましょう。

BOU防 SAI!災

あいおい損害保険(株)
(地震保険)
http://www.ioi-sonpo.co.jp

地震へのそなえ大丈夫？
“地震保険”の普及は現在約２０％。
地震の起きやすいところと、起きにくいところでは掛金が違います。
（あいおい損害保険(株)広域法人部　佐藤氏）

BOU防 SAI!災

■トイレコーナー■

▼▲災害時、水洗トイレが使えない!!⇒携帯トイレ・乾燥処理トイレ▲▼

1日7回程度

食事は我慢できても、トイレは我慢できない。先の中越地震では、避難生活で最も困ったことの1位がトイレで、我慢しすぎたあまり、エコノミークラス症候群にかかってしまう人もいます。夏場では感染症も心配です。
（健康な人の一日のトイレの回数。大便 1回、小便 5～6回、程度）

BOU防 SAI!災

(株)総合サービス
(簡易・携帯トイレ)
http://www.sservice.co.jp

断水のとき、電気が止まったとき、トイレが使えなくなる。
“テノヒラトイレ”は、自宅のトイレに広げれば使える携帯トイレです。
（(株)総合サービス営業部　古賀氏）

ニッケン産業(株)
(災害トイレ)
http://www.rental.co.jp

来場者の感想
⇒排泄物を粉末にできるってスゴイ！
⇒コンパクトさもわかり、備蓄することにも抵抗感が減りました。

“ドライレット”は、400ccの水で吸引した後、熱を加え、水分を蒸発、固形分のみにし、触媒で酸化脱臭、粉状にして紙パックに回収します。
（ニッケン産業(株)営業チーム　朗氏）

■体験コーナー■

▼▲体験すること＝備えること AED、起震車、災害用トイレ▲▼

“災害用トイレ車は”機動性が高く、４ｔトラックでも、分割してヘリでも輸送可能。柏崎市でもバリアフリータイプのトイレはとても喜ばれました。
（北陸地方整備局北陸技術事務所　斎藤氏）

災害用トイレ車
(北陸地方整備局北陸技術事務所・日本トイレ研究所)
http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/

来場者の感想
⇒仮設的なトイレが多い中、立派な移動式トイレを見ることができた
⇒トイレの問題はとても重要

渋谷消防署
(AED(自動対外式除細動器)、地震体験車)
http://www.tfd.metro.tokyo.jp

“AED”は意識不明、呼吸不全からの回復のためのもの。“起震車”は、M7.8まで体験できます。どちらも、一度経験すると、体が自然と動きます！！
（渋谷消防署　三瓶氏）

来場者の感想
⇒危ないという実感ができた
⇒実際体験してみないとわからない

BOU防 SAI!災

■食料コーナー■

来場者の感想
⇒食事は大切だから、防災用として日持ちするのがいい
⇒カッコイイ！是非そろえておきたい

▼▲水だけあれば、おいしく食べられる非常食とサバイバルグッズ▲▼

1800kcal
〜
2200kcal

一般的な成人の摂取カロリーの目安は、だいたい1800kcal〜2200kcal前後です。しかしこれは目安であって、男女や年代によっても違います。
非常用食品も備えておきましょう。

BOU防 SAI!災

キャンプなど遊びの中での経験が役に立つはず。防災食品は生モノを使えません。
乾燥食材を利用します。
1、あける。2、水を入れる。3、待つ。以上。
（(株)モンベル東京広報部　森下氏）

(株)モンベル
(アウトドア用品、防災用品)
http://www.montbell.com

BOUSAI LIVE

Powerd by A to No Records Artists

ステージでは、恵比寿のレコード会社（A to No Records)の協力を得て、7組のアーティストとともにライブを行いました。
アーティストの中には被災体験をされた方もおり、実際の体験談を交えながら、音楽に乗せて防災メッセージを発信しました。
また、防災は特別なことではなく、普段があたりまえのように備えておくことの大切さをアピールしました。

地震とか、間近に来ていると実感。（災害を）経験していない方も真剣に考えていけたらと思ってます。（りとる。）

楽しく過ごしていけるよう、今回のイベントで学んでいきたい。（きしのりこ）

阪神・淡路大震災のとき、当事者はどういう状況におかれているかわからなかった。人のつながりにすごく助けられた。つながりを大事に生きていきたい。（Kiyoka）

家族で集合する場所など話し合っています。いろいろなコーナーで体験をして、防災について考えるきっかけになったら、とおもいます。（とっと）

スグに外へ出られるよう窓をCheck！いい機会と思うので、一緒に知識を蓄えて帰りたいと思います。（mimika）

防災アイテムは「靴」集中号豪雨もあったが、できるだけ事前に対策することが大事！（PARADISO CHOIR）

阪神・淡路大震災のとき、トイレが流せないことが一番困りました。家族みんな、地震のときの対応が早くなった。（PAN POP PARADISE リーダー おかぴー）

いい機会なので、ぜひAED・起震車など体験していきたい。田中直人（A to No Records - CEO）

BOUSAI Questionnaire

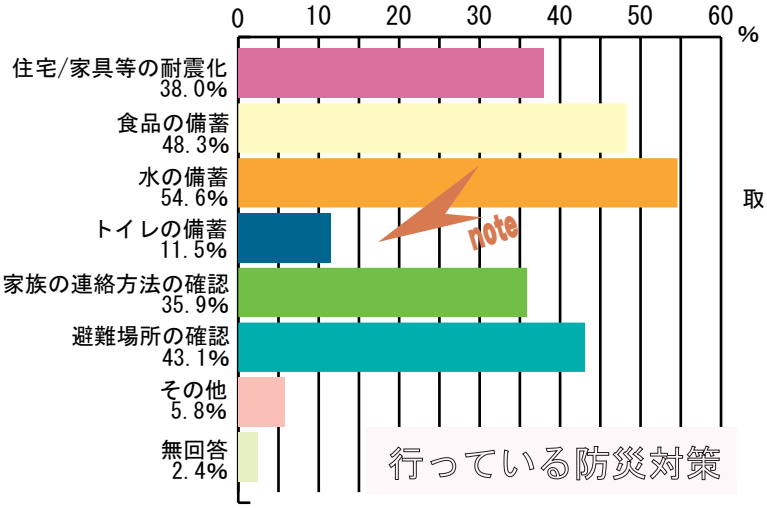
n=842

来場者に防災に対する意識調査を実施し、842名の方からの回答がありました。
「Q.どのようにこのイベントを知りましたか？」の質問に対しては、
「通りがかり」と回答した人の割合が約半数もあったことから、防災というテーマでありながら、一般の人の関心をひく内容とすることができたと感じています。

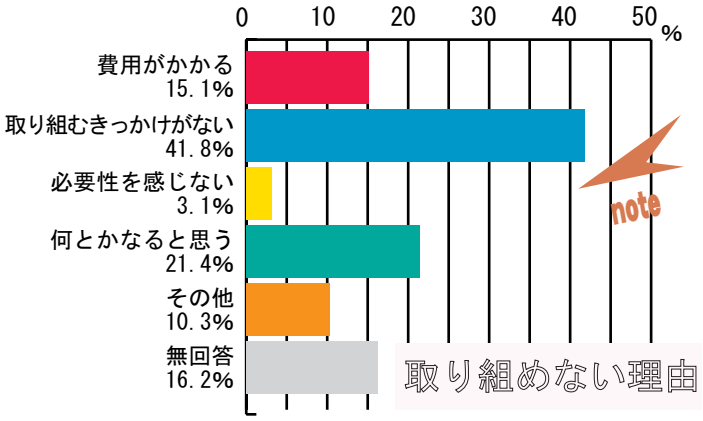
しかし、今回の調査で「Q.行っている防災対策は？」の質問に対しては、「トイレの備蓄」は11.5%と、ほとんどの人がトイレの備えができていないということも明らかになりました。これは今後の課題です。ちなみに「何らかの防災対策を行っている」という人は、全体の97.6%と非常に多い結果となっています。

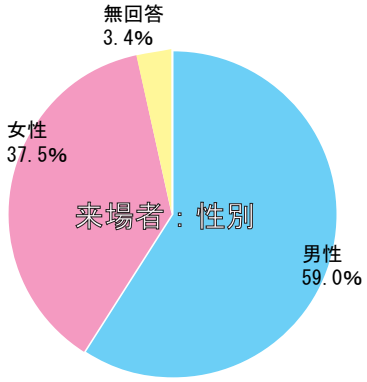
また、アンケート回答者全員に、今日からはじめる防災宣言をしてもらいました。

トイレの備蓄は11.5%に過ぎない

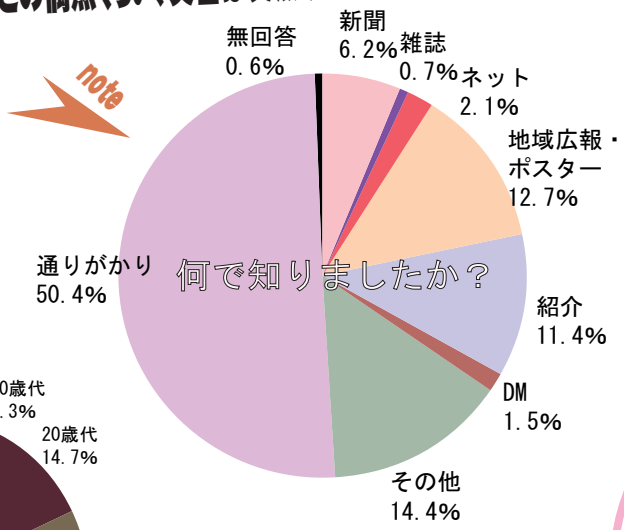


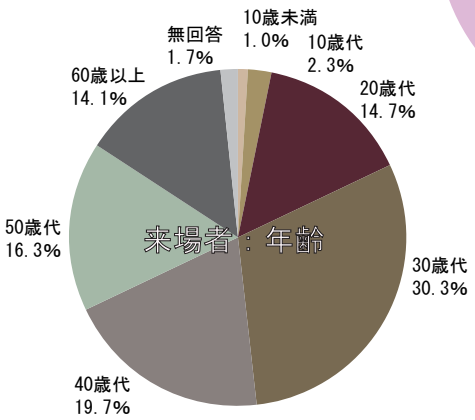
本当に大丈夫? このイベントを機にBOUSAIを!



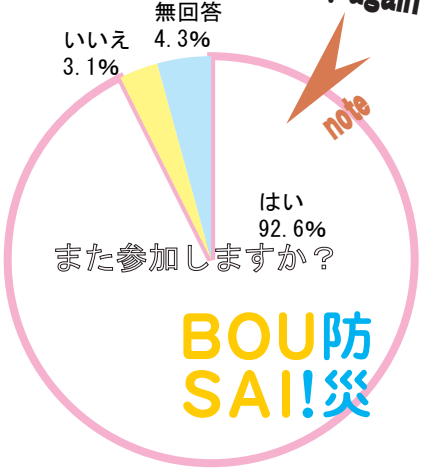


この偶然くらい、災害は突然やってきます。





See you! again



アンケート回答者にプレゼントした
いざ!BOUSAIエコバッグ

BOU防 SAI!災

いざ！BOUSAI 2007

2007.10.24